

令和8年2月開催の 豆作り講習会の開催結果

(公財)日本豆類協会

実需者ニーズに応える安定的な豆類の生産を進めるための「豆作り講習会」を北海道内4カ所において開催しましたので、その概要を紹介します。

豆作り講習会は、当協会設立2年目の昭和41年に初めて開催し、一時中断を経て、昭和55年からは現在に至るまで毎年開催しています。

本年は、昨年までと同様に前半と後半に分けて、まず前半として2月12日に当麻町（当麻町公民館）、13日に千歳市（北ガス文化ホール）、後半として26日に北見市（端野町公民館）、27日に芽室町（めむろーど）において開催しました。また、当麻町および芽室町の会場ではWebを併用したハイブリッド形式で行いました。

講習会には、北海道農政部、(地独)北海道立総合研究機構農業研究本部（上川農業試験場、中央農業試験場、北見農業試験場及び十勝農業試験場）、北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会、(公社)北海道農産基金協会、十勝農業協同組合連合会および上川生産農業協同組合連合会の後援をいただいたほか、地元の振興局（上川総合振興局、石狩振興局、オホーツク総合振興局、十勝総合振興局）等には会場の準備等で大変お世話になりました。誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。

日程	会場	参加人数
2月12日(木) 12:30-14:55	当麻町公民館（当麻町）	会場76名 Web43名
2月13日(金) 10:00-12:20	北ガス文化ホール（千歳市）	会場71名
2月26日(木) 10:00-12:40	端野町公民館（北見市）	会場116名
2月27日(金) 10:00-13:05	めむろーど（芽室町）	会場139名 Web52名

それぞれの会場では、北海道農政部の司会進行のもと、主催者である日本豆類協会から御挨拶した後、

- (1) 当麻町および千歳市においては日本製餡協同組合連合会真田慎吾理事から、北見市および芽室町においては全国和菓子協会藪光生専務理事から、道産豆類への熱い要望が述べられました。このお話を受けて、
- (2) ホクレン・北海道農協中央会から、要望に応えるためには作付指標面積を踏まえた面積拡大が必要であること、
- (3) 道総研農業試験場から最新の品種や高温対策への取組、病虫害対策の説明が行われるとともに、道農政部から農薬の適正使用に関する注意喚起が行われました。
- (4) その後、農林水産省から「豆類をめぐる現状・課題と対応方向」について令和7年度補正予算「畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業」の事業内容を含め説明がありました。
- (5) 最後に、
 - ・北見会場では優良事例報告として大空町女満別の白馬照泰氏に「わたしの豆づくりー基本を大切にされた栽培ー」
 - ・芽室会場では特別講演として（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 遺伝資源研究センター内藤健上席研究員に「アズキは日本の豆である」の講演を行っていただきました。

議事のなかでは、小豆生産者やJA担当者等から様々な質問が寄せられたほか、講習会終了後も熱心な情報交換が続いていました。当日の配付資料をご希望の方は、日本豆類協会 企画調査部（03-6268-8627）まで御連絡ください。

今年の講習会は、昨年の参加者の皆様からいただいたご意見をもとに、プレスリリース等により開催案内を広く周知するとともに、上記(5)に記載の事例報告等を新たに設けるなどの取組を行いました。

御参加いただいた皆様に感謝申し上げます。本年の結果を踏まえ、来年の開催に向けて改善していきたいと考えております。

会場風景



当麻町会場(2月12日)



北見市会場(2月26日)



千歳市会場(2月13日)



芽室町会場(2月27日)